

## (10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

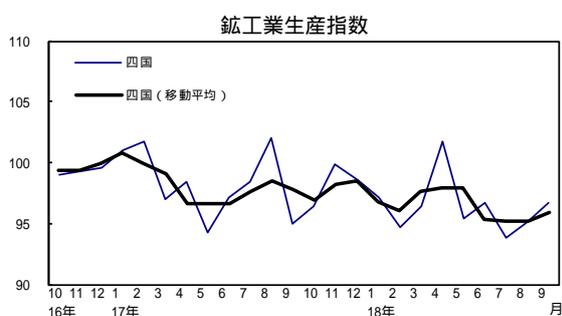
### 前回からの主要変更点

なし

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7 - 9月期には、化学・石油石炭製品は、医薬品等の生産減から減少した。電気機械は、光電変換素子の生産増等から増加した。食料品は、減少した。はん用・生産用機械は、固定式クレーン等の生産減から減少した。非鉄金属は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
化学石油石炭	22.9	15.5	15.0	5.4	8.1	1.7
電気機械	15.8	7.9	5.3	5.9	2.6	7.4
食料品	10.5	2.8	0.3	3.7	3.4	0.4
はん用・生産用機械	10.0	0.3	1.5	21.1	24.0	6.6
非鉄金属	8.0	4.9	3.3	1.1	1.1	9.1
鉱工業	100.0	2.0	2.8	3.0	1.5	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値

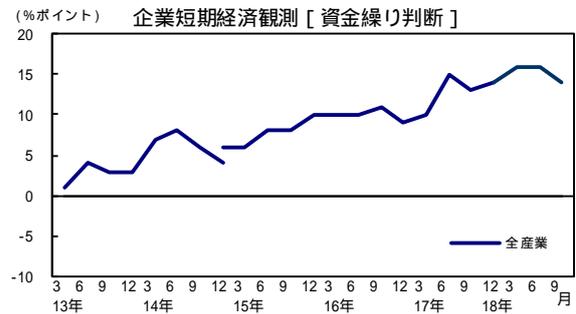
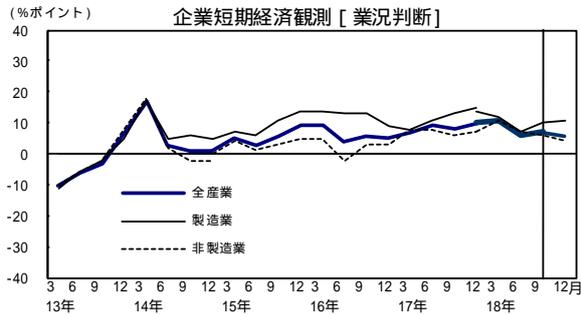
(備考) 1. 2010年 = 100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

(10) 四国

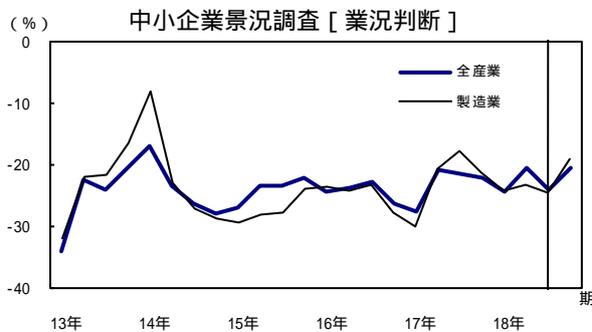
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

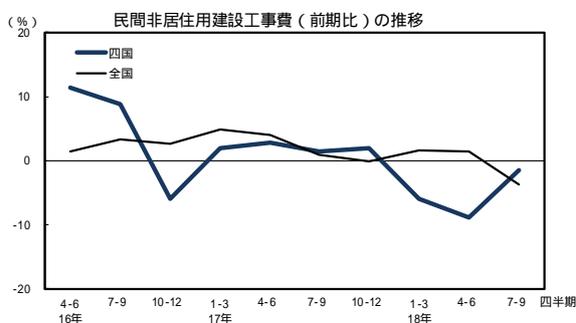


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「平成30年7月豪雨災害の後に台風も続いたため、経営環境としては低止まりの状態である(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	2017年度実績	2018年度計画
全産業	1.9	23.3 ( 3.7)
製造業	16.5	51.8 ( 6.4)
非製造業	19.0	5.8 (1.3)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

(備考)1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

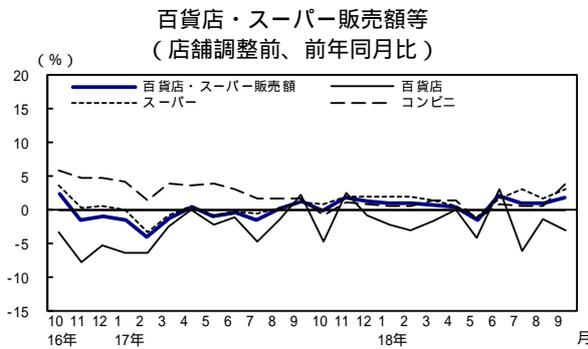
7月は前月比0.9%減、8月は同0.2%増、9月は同0.9%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、平成30年7月豪雨や台風の影響で客数が減少したほか、クリアランスセールの前倒しの影響等から「衣料品」、「身の回り品」が振るわなかったことから、前年を下回った。8月は、「衣料品」は婦人服の晩夏物の動きが鈍く、「飲食料品」は前年行った催事がなかったことなどから、前年を下回った。9月は、2度の台風等の天候不順で客数が減少したことで、「衣料品」などで秋物衣料の動きが鈍かったことなどから、前年を下回った。スーパーは、7-9月期は、引き続き天候不順の影響により夏物衣料が振るわなかったものの、総菜などの飲食料品が堅調に推移したことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「酷暑の夏が過ぎ、気温が秋らしくなってきたので婦人服を中心に季節商材の動きが順調である。天候もおおむね良い日が多く、レジャーや家族の行事に割く時間も多いため、関連商品も好調に推移している (商店街)」などの回答がみられた。

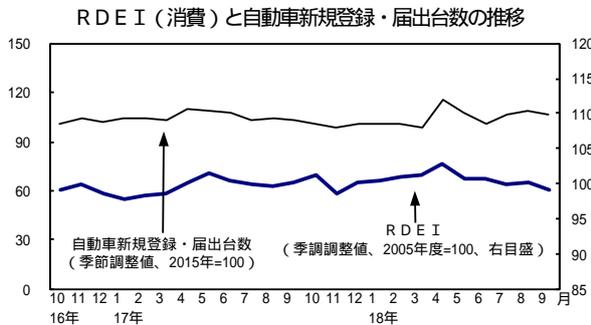


	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.6	0.9	0.2	0.9
百貨店・スーパー (*2)	1.4	1.1	1.1	2.0
百貨店 (*2)	3.8	6.1	1.4	3.0
スーパー (*2)	2.6	3.1	1.6	3.1
コンビニ (*2)	1.7	0.7	0.6	4.0
乗用車 (*3)	3.2	4.3	4.3	1.4
(季節調整値) (*3)	0.9	5.8	2.4	2.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

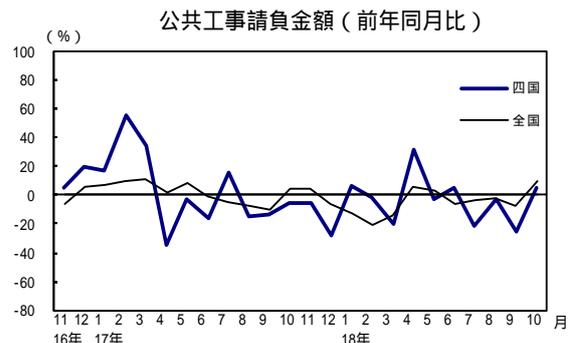
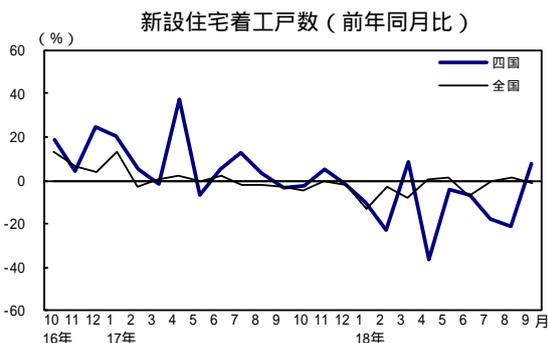
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は前年に比べて大幅に減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を下回っている。



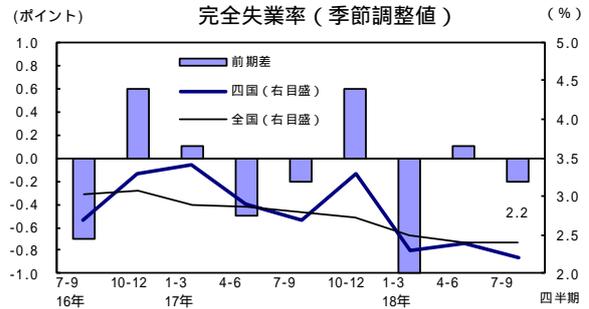
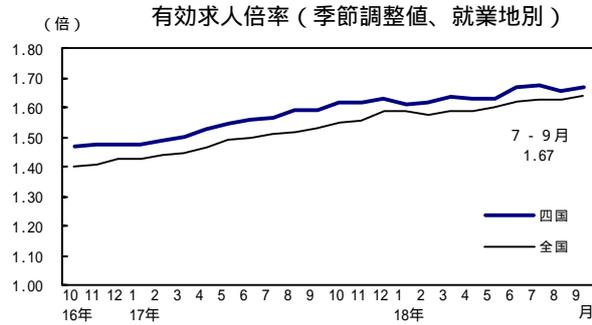
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[雇用関連(現状)]

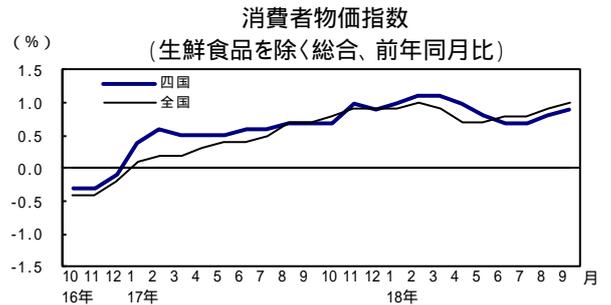
「人手不足は変わらない。現状を変化させる要因がない(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は大幅に増加、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の増減幅が同水準となっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数 (前年比)	37 37.0	42 40.0	41 2.4	38 26.7	17 70.0
負債総額 (前年比)	57 15.5	120 79.6	56 51.3	68 28.3	30 170.4



景気ウォッチャー調査(季節調整値)

